

# 東北ブナ紀行（85）

奥田 博

今回は県境の山のブナ。秣岳は栗駒山の西端、秋田と宮城の県境の静かな山。もう一山の甑山は、秋田県と山形県境の岩山で、登山口から山頂までブナの森に覆われたどちらも無名な山だ。

## 135) 秣岳 1424m

栗駒山は秋田・宮城・岩手の3県にまたがった山で、中腹にはブナの森が広がり、森林限界を越えると湿原に花が咲き、山麓には温泉が点在する東北の代表的な山岳の形をなしている。そんな中で、秋田側から登る秣（まぐさ）岳は山頂部以外ブナの森に覆われて、ブナの森を楽しめる山だと思う。

登山口の秋田県側、須川湖近くから歩き始める。すぐにブナ林の登りとなる。ブナの森を味わうには、登りに限る。登りのキツイ方が、ゆっくりとしたペースとなり、その分観察が行き届く。ブナの根元で一足早く紅葉するツタウルシを探し出したり、ブナの木に隠れるように付けたツノハンバミの実を頬張ったりしながら登る。突然トラバースの道になるとお花畑になり、コルに着く。ここから灌木帯を登れば、360°展望台の山頂到着となる。

コースタイム：登山口（1時間30分）山頂（1時間）登山口



紅葉はブナ大木のツタウルシから始まる



## 136) 甑山 981m

山形県には甑岳（1015m）と甑山があるが、甑山はブナに包まれた岩山だが低山。男甑山、女甑山の二つの岩峰である。秋田県境が登山道で、甑峠は山形と秋田を結ぶ古い矢島街道であった。

登山口までは長い林道を走り、着いた登山口はすでにブナの森の中だった。若いブナを中心に100年程度のブナが広がっている。そのブナ平とも呼べそうな中を歩くのは心地よい。その中には、樹齢千年を越えるような大カツラや、大ブナを占拠したツルアジサイの白い花束、足元には珍しいサイハイランの花などが見られて楽しい。

尾根に出ても山頂までブナに覆われ、途中からは今歩いてきたブナの樹海が広がっていた。

コースタイム：登山口（45分）主尾根（45分）男甑山山頂（1時間10分）登山口



岩山とは思えないブナに覆われた尾根